

製品名: AR- α 1A ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07189**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	51kDa

抗原情報

遺伝子名	ADRA1A
別名	ADRA1A; ADRA1C; Alpha-1A adrenergic receptor; Alpha-1A adrenoreceptor; Alpha-1A adrenoceptor; Alpha-1C adrenergic receptor; Alpha-adrenergic receptor 1c
遺伝子 ID	148.0
SwissProt ID	P35348
免疫原	抗血清はヒト ADRA1A 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 136-185

背景

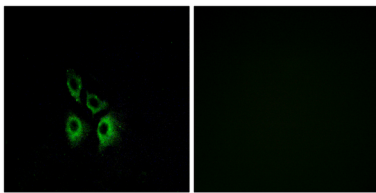
α 1 アドレナリン受容体 (α 1AR) は、G タンパク質共役受容体スーパーファミリーのメンバーです。これらの受容体は、細胞分裂促

進反応を活性化し、多くの細胞の成長と増殖を制御します。α1ARには、α1A、α1B、α1Dの3つのサブタイプがあり、いずれもGタンパク質ファミリーのGq/11を介してシグナル伝達し、サブタイプによって活性化パターンが異なります。この遺伝子はα1Aアドレナリン受容体をコードします。この遺伝子の選択的スプライシングにより、4つの転写バリエーションが生成されます。これらの転写バリエーションは、それぞれ異なるC末端を持ちながら、類似したリガンド結合特性を持つ4つの異なるアイソフォームをコードします。[RefSeq提供、2008年7月] 機能: このαアドレナリン受容体は、ホスファチジルイノシトールカルシウムセカンドメッセンジャーシステムを活性化するGタンパク質と結合することで作用を媒介します。その効果はG(q)およびG(11)タンパク質によって媒介される。、PTM: カルボキシル末端のセリンまたはスレオニン残基はリン酸化される可能性がある。、類似性: Gタンパク質共役受容体1ファミリーに属する。、組織特異性: 心臓、脳、肝臓、前立腺で発現するが、腎臓、肺、副腎、大動脈、下垂体では発現しない。アイソフォーム4は前立腺で最も多く発現するアイソフォームであり、肝臓と心臓でも高濃度で検出される。、

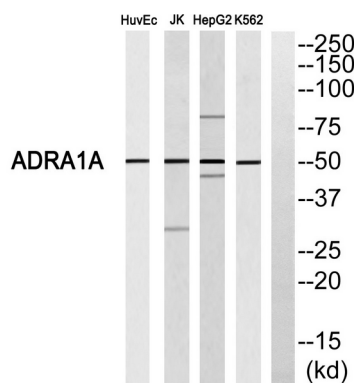
研究分野

カルシウム;神経活性リガンド-受容体相互作用;血管平滑筋収縮;

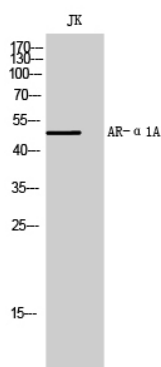
画像データ



ADRA1A抗体を用いたA549細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。



ADRA1A抗体のウェスタンブロット解析。右レーンはADRA1Aペプチドでブロックされている。



AR-α1Aポリクローナル抗体を用いたJK細胞のウェスタンブロット解析